

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890800507		
法人名	社会福祉法人 三桂会		
事業所名	グループホームまんでんたるみ東		
所在地	神戸市垂水区美山台二丁目8番2号		
自己評価作成日	令和2年12月22日	評価結果市町村受理日	令和3年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	令和3年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は2階からは明石海峡大橋が見える、閑静な住宅街に位置しています。徒歩10分圏内に、小さな公園や地域福祉センター、小学校や中学校がある立地を活かし、地域との関わりを少しずつですが増やしています。ほぼ毎月行われています地域福祉センターでのふれあいサロンへの出席や、小学校での催し物(凧揚げ大会や夏祭り等)にも参加させて頂いています。(今年はコロナ禍のため、行事が行われずで参加できていません。

喫茶外出や買い物にも出かけたり、近所を散歩したりと外出支援にも力を入れています。これもまた、コロナの影響で実現できていません。9月終わりにはささやかですが、玄関先にて敬老のお祭りを開催し、外の空気に触れて頂きました。喜ばれていました。青空通信はご家族様が楽しみにされていると伺い、今後も継続していきます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所内のあちこちで目につくキャッチコピー「笑顔と安心、たるみ東」は、職員の意識を高め、スマイルエクササイズの導入と実践で、職員はいつも笑顔で接してくれる。

コロナ禍で一時中断しているが、自治会員としてふれあいサロンや夏祭り等に参加し、トライやるウィークで中学生を受入れるなど地域交流を深め、介護の相談に住民が訪れるなど地域に根付いている。月1回の食事レクリエーションや折々の行事食など、入居者の食の楽しみも大切にしている。

遠方へのお出かけは自粛したが、近所の花見、玄関先でのかき氷、ペランダでのお茶などそれに代わる外出、外気浴も工夫した。

家族とも良い関係にあり、コロナ禍以前は運営推進会議に複数家族が出席して意見交換をしたり、家族の要望を受けてレクリエーションの企画や運営上の改善を行っていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

グループホームまんでんたるみ東

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑顔がある～そんな安心できる場所をめざします。自分らしさをいつまでも…まんでんらしさをいつまでも」を短くした「笑顔と安心・たるみ東」をキャッチコピーとして共有し、実践に努めている。スマイルエクササイズを一日1回は行うようにしている。	法人の理念を名札の裏に印刷し、全体会議や年度初めに復唱している。事業所が独自で作ったキャッチコピー「笑顔と安心、たるみ東」を休憩室や玄関、階段等に貼って常に意識できるようにし、スマイルエクササイズを導入して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、交流が途絶えている。	自治会に入っている。地域の行事に参加したり、事業所の夏祭りには小学生が立ち寄ってくれたり交流を深めていたが、コロナ禍であり現在行事は中止されている。近隣の方が柚子を下さったり、介護や施設の相談に立ち寄られる方がいて地域に根付いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会に向けて、月に1度の通信新聞を配布している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、会議を開催しています。ご家族、地域包括支援センター職員、自治会のブロック長、ご家族等に毎回参加頂き、ご意見を頂戴しています。この一年はコロナ禍のため議事録書面での通信となっています。	運営推進会議は現在書面で行っている。意見や提案に対しては前向きに検討を行う。家族の意見で過去に淡路島日帰り旅行を実現させた。第三者評価の結果も議題にして報告をしている。議事録は全家族、参加予定者に郵送し、誰でも閲覧できるよう玄関に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	東たるみあんしんすこやかセンターとは日常的に情報交換や連携を行なっている。生活保護受給者を受入れていることから区役所の生活支援課とも定期的にやりとりしている。	あんしんすこやかセンターは運営推進会議に毎回参加し、日常的に連絡をしている。区役所とはグループホーム連絡会や生活保護の方の事務があり顔の見える関係にある。退所先の決まらない方にあんしんすこやかセンター、区役所と連携し対応したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化検討委員会を3ヶ月に1度開催。センサーマットは歩行が不安定な方などにやむを得ず使用することがあるが、毎月検討し不要になれば撤去している。玄関とユニット入口は施錠しているが、外出を希望する入居者には職員が付き添って出ている。	身体拘束適正化委員会を三ヶ月ごとに開催し研修を行っている。センサーマット使用はフロア会議で検討し、家族に説明し同意書ももらっている。ユニット入り口、玄関は施錠しているが、外出を希望する方には話を聞き、職員が付き添って出掛けることもある。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の不適切なケアや言葉遣いを見かけた時はその都度注意やアドバイスを行なっている。年2回の虐待防止研修は事例検討を通じて防止方法を学ぶ。個人面談などで職員のメンタルな健康にも注意を払っています。	年に4回研修を行っている。不適切な言葉、ケアがあればその場で職員同士で注意し合っている。全体会で集約し対応方法を話し合うことで意識を高めている。職員との個人面談は月1回行い、悩みを聞いたり、ストレスの蓄積など精神面の状態把握に努めている。		
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の保佐人が付いている入居者が複数居ます。今後、成年後見制度についても研修の場を設けたいと考えています。	入居者に成年後見制度を利用している方が3名いる。玄関にパンフレットを置き、その他の方も相談があれば案内できるようにしている。必要と思われる方には提案、アドバイスをしている。家族が制度を理解できるように研修へ参加してもらうことを検討している。	権利擁護に関しては今後ニーズが高まると予想されます。なかなか踏み込みにくい問題ですが、ご家族を交えての研修はよい方法と思います。是非開催されることを期待しています。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書は条文を逐一読み上げ、具体例で補足するなど、十分な時間をかけて説明し理解を得るようにしている。入居後のトラブル回避も考え、事業所の出来ることと出来ないこと、退去条件などのルールも理解してもらえよう努めている。	入居相談時に説明をしている。契約時には契約書、重要事項説明書や「重度化した場合の対応に係る指針」など重要な書類は逐条読み上げ2時間半ほどかけて説明し、署名をもらっている。入居後のトラブル回避を考え、わかりやすい説明を心掛けている。		
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見・要望は運営推進会議だけでなく、来訪時も聞くようにしている。コロナ禍で面会が制限されているので、電話等でご様子を聞いてこられる家族様がおられるので、真摯にお答えしています。	運営推進会議は複数の家族から活発に意見が出ていたが、現在は書面での状況報告に代えている。家族の意見は事前に手紙で伺ったり、面会や電話の時に聞いている。質問の回答は議事録に丁寧に記載し、提案があれば全体会議で検討し意向に沿うようにしている。		
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	おおよそ月に1度の個別面談や全体MTGの場でのヒアリングや、必要に応じて適時、個別面談も行っています。	フロアミーティング、全体会、個別面談の機会に意見を聞いている。話しやすい雰囲気が出ており、多くの意見が出される。最近では1階と2階のフロアの基本業務の統一について話し合い改善をしている。トップダウンにならないように配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に3日間の希望休の取得を勧めています。また年に1度有休を活用しながら4～5連休の取得も勧めしており、取得者が増えております。リフレッシュが出来たと聞いております。			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13			○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は積極的に月に1度は行っています。外部研修にはコロナ禍のため参加できていません。		
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	この一年、コロナ禍のため参加出席できておりません。メール等で情報を知っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の不安解消に努め、入居中安心して暮らしているかコミュニケーションを図りながら傾聴している。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様には来訪時、利用者様の普段の様子を報告し、またサービスについて希望等が無いお聞きしている。ケアプランにも反映し実践している。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアプランの実施状況を毎日確認すると共に、支援が必要であれば話し合いの場を設け提案をしている。ご本人の様子や聞き取りにも細心の注意を払っている。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、洗濯、整理整頓など生活上必要な事が一緒に出来る方はして頂き、出来ないところをサポートしています。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	生活における困り事や、必要な物品など、病院への受診においても協力を頂ける関係であります。コロナ禍、小まめな連絡をしています。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前の施設の方との面会や、ご家族や友人への手紙を書くなど支援に努めています。	コロナ発生以前は、知人の訪問があれば、イベントに参加してもらったり、入浴の時間を変更したり配慮していた。職員が付き添って老人会のお茶会、馴染みの場所に出かけることもあった。手紙のあて名書きを支援しており、年賀状を出した方もいる。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりが持てるように支援しています。特にコミュニケーションがとれるように配慮しています。		
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了=ご逝去のケースがほとんどである為、ご本人への継続したフォローは来ていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	居室担当者を中心に利用者様のニーズを引き出そうと日頃から関わりを持っています。ご本人からの希望を聞きだせるよう努力しています。ご家族からの希望や相談事も聞きだせるように努めています。	自宅からの入居者は事前に訪問して思いや意向を聴き取り、入居前の暮らしぶり併せて基本情報に記録し共有する。入居後に把握した思いや意向は支援経過記録に書いて、家族にも伝えている。自分で意思を伝えられない方は表情や動作から汲み取っている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人からのヒアリングや、来訪時に家族様へ聞くなどして情報収集に努めています。生活歴からもヒントを得ています。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプランの実施状況を毎日確認し、現状把握に努めています。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議開催前に本人様や家族様へのヒアリングを行い、利用者様の普段の様子を踏まえたうえで、職員で話し合い作成しています。見直しは6ヶ月毎に行っている。	管理者、計画作成担当者、入居者ごとに決っている担当職員、フロアスタッフによる担当者会議を半年に1回開催する。毎月行っているモニタリングを踏まえ、本人と家族の話、場合により医師や看護師からの意見も聞いて、介護計画を見直している。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録や業務日誌、申し送りなどを活用し、情報共有を行っています。毎月のケアプランの総括でも情報の共有をしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベースとなるサービスをもとに、状況に応じたサービスを柔軟に提供しています。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	残念ながらこの一年はコロナ禍のため、地域への参加は出来ていません。過去には絵手紙教室や、買い物、食事、ふれあい喫茶などへ参加していました。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の往診時に細やかな連携のもと適切な医療を受けていただいています。必要に応じて家族様を招いて主治医と話す場の提供も行っています。	かかりつけ医は全員が事業所の協力医で、月2回の往診がある。また訪問看護師が月2回訪れるほか、希望者は鍼灸師によるリハビリも受けている。歯科医と歯科衛生士も人により月1回から4回の訪問がある。専門科の受診は職員が付添うことも多い。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問、もしくは24時間オンコール体制の訪問看護師に介護職では判断しにくいケースについて相談しています。また必要に応じて主治医と連携をしています。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後も定期的に、MSWと情報共有しています。退院時も事前に訪問し退院カンファレンスを開催し情報収集に当たっています。また後方支援病院へは3ヶ月に1度、本人様の医療情報の共有を行っています。	協力病院のうち、1ヶ所は後方支援病院になっており、3ヶ月ごとに入居者の情報を送ることでスムーズに入院できる。コロナ禍のためお見舞いは出来ないが、退院許可が出たらすぐに訪問し、カンファレンスにも出席して、退院後の円滑な生活に繋げている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に当事業所の方針を説明すると共に、延命処置の希望も聞いています。看取り期に入る場合においてもご家族との話し合いを頻繁に設けています。	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」と緊急時の「延命措置に対する意思表示書」を説明して同意書もらう。実際に重度化した場合はかかりつけ医と共に説明し、再度家族等の意向を確認して、看取り介護を行う。この1年で2人の方を見送った。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生対応マニュアルを各フロアに設置しています。コロナ禍のため積極的な研修が出来て降りません。急変時の対応については、定期的に注意喚起しています。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災避難訓練(昼間、夜間)を行っています。また水害、土砂災害対応マニュアルを作成しています。コロナ禍のため、地域住民との訓練等は行えていない。	消防署の指導を受け、年に2回、昼間と夜間を想定した火災避難訓練や水消火器を使った消火訓練を行ない、業者による火災報知機等の操作の講習もしている。地域との協力体制が課題であるが、コロナ禍の為今年度は地域への声掛け等が出来ていない。	水と非常用食料の備蓄について、現在系列施設と検討中とのことですが、できれば事業所の敷地内での備蓄スペース確保の方法を工夫されることを期待します。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを感じれる言葉つかいをしているが、目上の方と言う事を忘れないようにしている。自己決定を大事にしている。	接遇の研修を年1回行ない、馴れ馴れしい態度や不適切な言葉遣いが無いよう徹底している。職員が居室に入る時は必ず許可をもらい、入浴やトイレで支援する時は羞恥心に十分配慮する。起床時の服装選び等で、自己決定してもらうことを大切にしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	訴えがあれば傾聴し出来る事は対応しています。日頃の会話からもニーズ等を聞くようにしています。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	様子を伺いながら、食事や入浴、外出等のサービスを提供しています。個々のペースやレベルに合わせたケアを実践している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に着る服を選んでいただいています。外出時も季節に応じた服を着ていただいています。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方には食事の準備や片づけをして頂いています。またお箸が持ちにくい方にはスプーンなど食事のしやすいもので対応しています。メニューを書いて頂いたりしている。	前日の昼に届く調理済みの食材を加熱等して提供し、入居者も準備や後片付けに参加する。月に一度はちらし寿司などの行事食、行事おやつ、並びに食事、おやつ作りのレクレーションがある。入居者は自分のお箸、茶碗、湯飲み、コーヒーカップを使っている。	食事レクレーションの時だけでなく普段の食事の時にも、味加減や温かさとか入居者の反応が把握できますので、職員と一緒に食事することを検討されてはいかがでしょうか。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量を把握し、残さず召し上がれるように工夫している。水分量が少ない方には好きな飲み物を提供している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	少なくとも朝と夕食後には口腔ケアをしています。また月に4回訪問歯科医による口腔ケアと月に1度、助言や指導を頂いています。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを掴み、適時トイレの声かけを行っています。排泄表を確認しながらタイミングを大事にしている。	排泄と水分摂取を記録してパターンを把握し、適切なタイミングで声をかけることにより、大半の方はトイレでの排泄が出来る。紙おむつの方は2人だけで、他は布パンツかリハビリパンツで過ごし、夜間も殆どの方は声掛けによりトイレに行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分摂取量を把握しています。また必要に応じて運動等も取り入れています。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴を決めているが、本人の体調や気分などに合わせ、柔軟に声かけをして対応している。入浴好きの方にも希望に添えるようにしている。冬至には柚子を頂き、ゆず湯を楽しんでいる。	体調に留意しながら週2回の入浴を支援している。入りたがらない方は日を変えたり馴染みの職員が誘導したりする。同性介助の希望にも対応する。近所の方や家族に頂いた柚子でゆず湯をしたり、しょうぶ湯もする。初湯は入浴剤で温泉気分を楽しんだ。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝や起床時間は入居者様によって異なります。照明や室温の調整も行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	必ず2人での確認を行っています。また服薬後口の中をチェックすることも心がけています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個別のケアプランに沿って、日々楽しく暮らして頂ける様に支援しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、積極的な外出は出来ていません。感染予防対策をして近隣散歩がやっとです。	今年度はバス旅行や桜の名所での花見、誕生日のご希望先への外出、家族との外食等々は感染防止の為全て自粛した。しかしコロナ禍でも近所でのお花見、玄関先でのかき氷、プランターの水やり、ほぼ全員が行く毎日の散歩など外出、外気浴の工夫をしている。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設の立替での買い物支援を行っています。この一年はご自身で支払われるような外出が出来ていません。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お手紙が届いたら、お渡ししています。一緒に開封し代筆や、自筆にてお返事を書かれています。電話の充電が途切れないようにサポートしています。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには手作りの布製のカレンダーもあり温かい雰囲気の中で、テーブルに座って歓談している。温度はご入居者に合わせて調節している。外の景色が見やすいように窓を開けたりしている。	リビングは明るく、手作りの布製立体カレンダー、入居者と職員が楽しみながら作った季節感溢れる貼り絵等が飾られ、加湿器兼空気清浄機2台で換気している。食事の時はテレビを消してBGMかラジオにするなど落ち着いた温かい雰囲気である。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様の相性を考慮したうえで座席に案内しています。職員とのコミュニケーションを好む方には職員が付いています。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に自宅にあるものの持込を勧めています。タンスや時計、お写真を持って入居されている方もいます。	居室はベッドと洋服ダンスが備え付けてある。入口のネームプレートには写真や飾りつけ、願い事を書いた短冊などを貼って、入居者の目印代わりにしている。入居者と家族で好みの家具やテレビ等を持ち込み、居心地よい空間にしている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご自身で選んで頂き易い様なタンス内の整理整頓をしています。靴は履き易いように置いています。テーブル上には筆記用具やポットを置かれている方もおられます。		